

事例2 第6学年 内容項目：A 真理の探究

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| ・教材への関心を深める導入 | ・教材の登場人物に自我関与させる発問 |
| ・揺さぶりをかけ、多様な考えを引き出す切り返しの発問 | ・道徳的価値の実現へと向かう原動力を探る発問 |
| ・本時の学びを共有する意見交流 | ・日々の生活と登場人物の生き方を重ね合わせた説話 |
| ・道徳ノートに記述した児童の感想（授業をした日の家庭学習） | |

1 主題名 新しいことを求めて

- 2 **ねらい** 手塚治虫が人生の中で大切にしたことについて考え、話し合うことを通して、進んで新しいものを求め、よりよくしようと追い求めることの大切さを理解し、日々の生活を豊かで充実したものにしようとする態度を育てる。

教材名 「まんがに命を～手塚治虫 日本のテレビアニメの生みの親～」(出典：「新しい道徳 6」東京書籍)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本時は、小学校第5学年及び第6学年の内容項目「真理を大切にし、物事を探究しようとする心をもつこと。」に関するものである。

手塚治虫が書いた『ぼくのマンガ人生』（岩波新書）によると、『鉄腕アトム』を描きはじめて1951年ごろ、この作品に対する父母や教育者の批判はものすごいものだったそうである。しかし、手塚治虫はぶつけられてくる非難を、幼い頃母に言われた通りに我慢して目をつぶりながら、荒唐無稽と言われるものを描き続けたという。手塚治虫が、批判を浴びながらも描き続けた強さは、どこからくるものなのだろう。手塚治虫の中にある「正しい物事の筋道」である真理とは何だっただろう。次々に新しいことに挑戦し、新たな自分をつくっていくための心の中には、どんな思いがあったのだろう。

自分自身が真理を見極め、探究心をもち進んでいくためには、人とのつながりが欠かせない。手塚治虫は会社がうまくいかなかったとき、手塚治虫から、たくさんの人が離れていった。しかし、ある一人の人との出会いによって、手塚治虫は力を得たという（『ぼくのマンガ人生』より）。真理は、日々の生活の中にある。手塚治虫を支えた友人は、自身の真理を貫いたのである。

指導に当たっては、手塚治虫の人生に自分を重ね合わせて考え、主体性をもって柔軟に物事に対応し、探究心を育て、自己のよりよい成長を目指そうとする積極的な態度を育てることが大切となる。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、何事にも前向きにチャレンジすることができる。クラスみんなで乗り越えていこうとする強さとやさしさをもっている。1学期には、クラスを超えて学年全体が年間を通して歌える歌「学年ソング」を決定し、練習に励んだ。学年ソングは、児童と教師の心の支えとなっている。2学期には、運動会や市内体育祭に夢中になって取り組んでいる。主体性を持ち、日々の生活を充実させている姿が毎日の生活の中に見られる。

道徳の授業においては、友達の意見に耳を傾け、自分の考えを深め、自己の生き方を見つめる学習態度の様子が見られる。また、各教科・領域の学習では、真剣な学びの様子からよりよく生きていこうとする意欲が感じられる。今後、児童にはたくさんの出会いがある。そして、様々なことを経験する。この授業を通して、今もっているチャレンジする心を大切に、やすきに流れて現状に甘えることのないよう、多面的・多角的に意見を交流し、自己の生き方を大切にようとする態度を育てたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、手塚治虫が子供の頃から大きな夢をもち、手塚治虫の真理を大切にし、夢の実現に向けて夢に愛情と熱意を注いだ話である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合う。

① シリーズもののアニメを作ると決心した場面。

ここでは、お金と人手がかかるアニメの制作を始め、シリーズものに取り組む決意をし、はじめての作品が大きな拍手で迎えられたときの治虫の達成感について考えさせる。

②アニメの制作のため、とてつもなく大変な作業をしている場面。


創作意欲いっぱいの治虫の気持ちと、新しいことへのチャレンジに対する不安な気持ちを考えさせ、迷いながらも前進していった治虫の心の中について考えさせる。

③どんどん新しいアニメとまんがが生まれ出されていった場面。

新しいことを求めていくために治虫が大切にしたいものは何だったのか考え、物事を探求する心について考えさせる。

以上の理由から、本主題を設定した。


4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点☆評価の視点
	<p>1 教材への関心を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> 手塚治虫の人生を振り返ってみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 治虫は本当にマンガが好きだったのだな。 どうしてそんなに頑張ることができたのだろう。 大変なことを乗り越えてきたんだな。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいとする道徳的価値に迫るため、教材の補足説明をすることを通して教材への関心を深め、話し合いが活発になるようにする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">教材への関心を深める導入</div> <p>T：先生のお話を聞いたりしてどんなことを思いましたか。 C：信念をもっている人だなと思いました。 C：あきらめなかった手塚さんはすごい。 C：頑張れたのは助けてくれた人がいたからだと思います。 C：自分だったら逃げてしまうかもしれません。</p>			
展開	<p>2 教材を読み、話し合う。</p> <p>(1)シリーズものの作品を作る決意をした治虫はどんなことを考えていたのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 何としてでもアニメを作りたい。 マンガを通して、自分の思いを伝えたい。 お母さんがやりたいことをやらせてくれたのだから、その気持ちをしっかりと受け止めよう。 	<ul style="list-style-type: none"> どんなときでも自分の心を見失わず、夢に向かっていった強さに気付かせる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">教材の登場人物に自我関与させる発問</div> <p>T：シリーズものの作品を作る決意をした治虫はどんなことを考えていたのでしょうか。 C：せっかく支えてくれる人がいるのだから頑張ろう。 C：まんがを広めるチャンスがきたからやり続けよう。 C：チャレンジするぞ。 C：親に感謝。 C：長く続くまんがを作りたい。 C：大変な作業なんだろうな。</p> 			

<p>(2)とてつもなく大変な作業をしている治虫の気持ちを考えましょう。 (中心発問)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一度決めたこと。やりきろう。 ・アイデアを出して挑戦していけば道は開けるはず。 ・みんなで成功させたい。 ・自分がやりたいことを大切にしたい。 ・成功させるためにどんな工夫をすればいいのだろうか。 ・スタッフのことを考えるとこれでいいのかな。 ・初めてのことはやっぱり不安な気持ちもある。 ・アニメ作りは、お金がかかること。やり続けられるのだろうか。 ・家まで売ることになり、家族に迷惑をかけてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創作意欲いっぱいの治虫の気持ちを考え、更に工夫しながら解決していくすばらしさについて考えさせる。その中で、新しいことへのチャレンジに対する不安な気持ちにも触れさせたい。 ・児童が考える素直な気持ちに互いが触れることができるよう、まずはペアで伝え合う。その後、全体での話合いに広げていく。 <p>☆大変な作業に取り組む意欲と不安な気持ちについて考え、自分の思いを伝えている。(ペア・小集団学習・発表・つぶやき)</p>
---	--	--

揺さぶりをかけ、多様な考えを引き出す切り返しの発問

T : 大変な作業をしているときの治虫はどんな気持ちだったでしょう。
C : 想像以上につらい。
C : 後戻りせずに頑張ろう。
C : 待っていてくれる人がいるのに、自分の都合でやめたら読んでいる人も悲しいし、自分もつらい。
C : 迷惑をかけた分、頑張りたい。
C : 本当にやりたいことだから頑張ろう。
C : 最後までやり続ける。
C : 支えてくれる人がいるし、一緒に頑張っている人のためにも続けたい。
T : 「やり続ける」って本当にできますか。家を売って、いく。そのような中、続けられますか。
C : やりたいんだけど・・・
C : 違う道を選ぼうかな。
C : やりたくても現実的に無理なのかな。
C : さみしくなっちゃったな。



容易なことではないのではないかと揺さぶりをかけ、多様な考えを引き出した。

<p>(3)手塚治虫が、新しいことを求めていくために大切にしたいものは何だったのでしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の中にメッセージをもつこと。 ・チャレンジする心と達成するために工夫すること。 ・夢を達成するために努力すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入での児童の反応に触れ、治虫が「日本のテレビアニメの生みの親」になることができたのはなぜかを考えることができるようにする。
--	--	---

道徳的価値の実現へと向かう原動力を探る発問

T：手塚治虫さんも、今みんなが色々考えたように、きっとたくさん悩んだことと思います。そして、漫画家になる決意をします。新しいことにもチャレンジし続けました。新しいことにチャレンジしていくと自分がどんどん変わっていく。それって、成長しているということですね。手塚治虫さんが新しいことを求めていくために大切にすることは何だったのでしょうか。では、ノートに書いてじっくり考えてみましょう。

C：テレビを通して、自分の気持ちを伝える。

C：今まで支えてくれた人のことを忘れない。

C：みんなを楽しませて笑顔にする。



3 自己を見つめる。

・みなさんは、今日の学習を通して、自分のよりよい成長のために何を大切にしますか。

・自分が大切にしていきたいことをもっていると、治虫のようにたくさん頑張れるのだなと思いました。今取り組んでいることに全力で頑張りたいと改めて思いました。

・大切なものを見失わず、これからも追い求めていきたいです。

・日々の生活に結びつくよう、大切にしたいことや自分にできることを考えさせる。
☆日々の生活を充実させるために必要なことを考え、自分との関わりで考えている。
(ノート・発表)

本時の学びを共有する意見交流

T：伝え歩きで、まずは二人のお友達に自分の考えを伝えましょう。

C：挑戦し、最後まであきらめないこと。

C：自分の決めた目標に向かって努力し、希望を捨てないこと。

C：決めたことを大切にし、大好きなことをもつこと。



終末

4 教師の説話を聞く。

・日々の生活を豊かで充実したものにしようとする意欲を高める。

児童の日々の生活と登場人物の生き方を重ね合わせた説話

T：先生は、このお話を読んだとき、みんなと通じる場所があると思いました。6年生のチーム名は「H I A 88」ですね。6年生になったとき、みんなで考えました。これは「日々 生き生きと 新しい6年生88名」という意味でしたね。

T：学校生活の中でこのチーム名にふさわしいみんなの姿を見ることがたくさんあります。今であったら、市内音楽祭に向けて取り組んでいる姿です。1か月前の小中合同合唱祭でもとてもすばらしい合唱を披露しました。校長先生からは「もう本番を迎えても大丈夫ですね。」というお言葉をいただきました。

T：ところが、とても上手な合唱だったにも関わらず、みんなは学校に戻ってきて「こんなことが出来るようになりたい。」「もっとこうになりたい。」と自分たちを振り返っていました。どんなことを頑張ったらいいか先生に聞きに来る人もいました。

T：みんなの中に「日々 生き生きと 新しく」成長している姿があります。新しいことにチャレンジし新しいことを生み出していった手塚治虫さんと同じ姿があります。そんなみんなが、先生はとても素敵だなと思っています。



本時の板書



5 他の教育活動との関連

事前指導	総合的な学習の時間（キャリア教育）「夢に向かって」において、自分を見つめる学習を行う。
特別の教科 道徳	教材名 「まんがに命を～手塚治虫 日本のテレビアニメの生みの親～」 手塚治虫が人生の中で大切にしたことについて考え、話し合うことを通して、進んで新しいものを求め、よりよくしようと追い求めることの大切さを理解し、日々の生活を豊かで充実したものにしようとする態度を育てる。
事後指導	本時の授業についての感想を家庭学習として、道徳ノートに書く。
家庭との連携	授業中に書いた道徳ノートや家庭学習で書いた感想文を教室にある「道徳コーナー」に掲示し、授業参観の折に見ていただく。

道徳ノートに記述した児童の感想（授業をした日の家庭学習）

- 私たちH I A 8 8は、一人一人が成長できているなと思いました。たくさんの行事を乗り越えてきて、振り返ってみると心が温かくなってきました。私も手塚治虫さんのように何事もあきらめずに取り組んでいきたいと思いました。
- 今日の学習を通して、ピカソ（5年生の道徳授業）と同じように、有名になるには努力をし、つらいことがたくさんあるなと思いました。前回の道徳授業のすみ子さん（「言葉のおくりもの」東京書籍）だけではなく、手塚治虫さんも大事にしてきたことを忘れないで進んでいったのだと思います。手塚治虫さんのように、求め続けることを大切にしていきたいと思います
- 手塚治虫さんがこだわってやり続けたことは、夢をあきらめないということだと思います。それだけでなく、手塚さんにとって1ページ1ページが大切な宝物で、読者の人にも自分の思いが届くようにまんがをかき続けたのではないかと思います。大好きなまんがをかき続けた手塚さん。ぼくも、大切なことを追いつけていきたいと思います。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・手塚治虫に自分を重ね合わせ、友達の意見を取り入れ考えを深め、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・物事を探究する心との大切さについて自分との関わりで考えている。

7 考察

(1) 道徳科の目標に示された学習活動

①多面的・多角的に考える学習について

手塚治虫に自分を重ね合わせる手立てとしては、導入の段階で行った。本学級には、年度始めの道徳ガイダンスにおいて、教科書にある本教材に大変興味をもっている児童がいた。その児童は道徳ノートを持ち帰り、手塚治虫の作品を描き後日ノートを提出した。今回「まんがに命を～手塚治虫 日本のテレビアニメの生みの親～」を扱うにあたり、児童に手塚治虫の作品を描いてもらった。その作品に学級の児童は引き付けられ、手塚治虫の人生を振り返ることができた。話を聞き入る児童の真剣や表情から、教材と児童の距離が縮まり自分と重ね合わせて考えるための工夫として効果的であったと考える。また、シリーズものの作品を作る決意をした手塚治虫が、とてつもなく大変な作業をする中で抱えたであろう気持ちを考えさせることにより、多面的・多角的に考えることに迫った。創作意欲いっぱいの気持ちと、新しいことへのチャレンジに対する不安な気持ちにも触れさせるための学習活動として、ペアでの学習を通して全体への話合いに広げていった。ペア学習では、児童の心の中に浮かんだ思いを率直に語り合う場となった。ペア学習を基に、全体での話合いでは「続けようか」「もうやめようか」という両方の気持ちについて触れ、自分の思いを語り合うことができた。

②自分との関わりで考える学習について

自己を見つめる段階で、今日の学習を通して自分のよりよい成長のために何を大切にするか考えさせ、話合いでの学びを自分との関わりで考えることができるようにした。自分の生活に生かすためには、考えたことを各自が声に出すことが大切だと考え、席を離れての伝え合い活動を行った。一人一人の児童が自分の考えをもつことができたことは、今日の学びが自分との関わりで考えていたということの表れである。終末では、日頃の児童の頑張りとは内容を重ね合わせて話をした。

(2) 視点☆に基づく本時の評価

【物事を多面的・多角的に考える様子】

- ☆大変な作業に取り組む意欲と不安な気持ちについて考え、自分の思いを伝えている。

展開における第1発問で、多くの児童は「よし、頑張ろう」とシリーズものの作品づくりをする決意をした手塚治虫に共感していた。しかし、それをやり遂げるための厳しい現実にあふつかったときの気持ちを考える第2発問では、「想像以上につらい」というつぶやきがあった。そして、教室が沈黙。ペア学習、小集団での学習によって、「現実的に無理なのかな」「迷惑をかけた分、頑張りたい」など自分の思いを伝えあっていた。その話し合いを受け、改めて全体で話し合いをした際には、「それでも今までやったことの意味がなくなってしまうので頑張りたい」など自分の考えを深めていた様子がみられた。自分自身のよりよい成長のために大切にしたいことを見つけようと真剣に話し合うことが、自己の生き方を大切にしようとする態度の育成につながっている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

☆日々の生活を充実させるために必要なことを考え、自分との関わりで考えている。

展開における第3発問で、手塚治虫が新しいことを求めていくために大切にしたものについて「テレビを通して、自分の気持ちを伝えること」「今まで支えてくれた人のことを忘れないこと」「みんなを楽しませて笑顔にすること」と考えていた児童たちが、自分のよりよい成長のために大切にしていきたいこととして「強い心とプラスに考えることができる明るい心」「みんなが支えてくれてここまでやってこることができた」「だれよりも努力したい」「頑張っている人を支えることができる人になりたい」などと考えをもつことができた。これらの発言から手塚治虫の人生を自分との関わりで考えていることが分かる。説話で本時の内容項目を自分自身のこととして振り返ることができるようにしたことによって、授業後の児童の感想に辿りつくことができた。更に、宿題で感想を書かせることにより、道徳の学びの余韻を大切にしたい。

(3) その他

展開での「手塚治虫が、新しいことを求めていくために大切にしたのは何だったのか」という発問をした際に、児童は深く考えこんでいる様子が見られた。そのため、道徳ノートに書いてじっくり考える時間を設定した。児童の反応によっては、自分の考えをしっかりとつために道徳ノートに記入する時間をとることは大切である。また、教材を自分事として近づける工夫として、授業の導入と終末を児童の実態と結びつけた取り組みを行った。終末での児童のこやかな表情と温かな教室の雰囲気から、本時の学習が一人一人の心に届いたことを実感した。